

-SSTR-

やっと隣に立てた日

2026.05.30

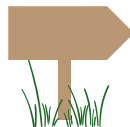
今回のSSTRは、単なるイベント以上の意味を持ち、妻と二人で挑戦した、人生において大きな節目となる特別な参加になりました。

私たちは出会ってから10年、バイクに乗るようになってから7年になります。

大学時代、家が近かったこともあり、私が当時彼女だった妻をタンデムに乗せて一緒に登校していたことがきっかけで彼女がバイクに興味を持ち始め、知らないうちに教習所に通い、サブライズで免許を取得していました。

その後、排気量は違うものの同じ日に同じNinjaを迎え、「Ninjaカップル」として走り始めました。そこから月日を重ね、今年3月12日に入籍し、今ではどこへ行くにも一緒に「Ninja夫婦」になりました。そんな私たちにとって今回のSSTRは、「これからも一緒に走り続ける」という想いを形にする場でした。

——ただ、この挑戦には忘れられない出来事があります。



昨年、私たちは初めてSSTRにエントリーしていました。千葉県からのスタートを計画し、前日は海辺の宿に泊まる予定でした。ところが宿に着いて妻のバイクを駐車枠へ停めようとした際、バランスを崩して倒してしまいました。いわゆる立ち転けです。妻のバイクは、標準色にはないオレンジ色に塗装しています。こだわって塗装した明るいオレンジの車体に、大きな傷をつけてしまったこと。その瞬間の光景は、今でもはっきり覚えています。

それ以降、駐車場での取り回しや、低速でバランスを取る状況になるたびに、あの瞬間が頭をよぎるようになりました。トラウマになっていました。だからこそ今年は、「今度こそ無事に妻を千里浜まで送り届ける」と決めていました。ただ、その決意とは裏腹に、不安は最後まで消えませんでした。そんな私に対して妻は、「何年も乗ってるんだし、大丈夫だよ。きっと神様も守ってくれる」と、変わらず笑って言ってくれました。

余談ですが、昨年のSSTRの前、二人でバイクのお祓いを受けていました。だからこそ去年の出来事も、「走り出していたら大きな事故につながっていた未来から守ってくれたのかもしれない」と思うようにはしていました。

自走できるように応急処置はできたものの、心は大きく乱れ、睡眠時間も減ってしまい、二人で悩んだ末、翌日の出走を断念しました。スタートラインにすら立てなかった悔しさと、それ以上に「大切なバイクを傷つけてしまった」という申し訳なさ、ずっと心に残っていました。



そして迎えた今年。

ウェディング企画という形でこの特別な舞台に参加できたこと、そして5月30日出走のウェディング参加者にも翌朝にゴールゲートでの記念撮影という機会を用意していただけたことが、大きな励みになりました。今回の走行は、昨年のリベンジであり、そして夫婦としてのスタートでもありました。

当初は昨年と同じく千葉からのスタートを考えていましたが、あの記憶がどうしても離れず、本番直前にスタート地点は沼津へ変更しました。二人のふるさとである山梨を通り、そこから北陸へ抜ける、これまで何度も走ってきた馴染みのあるルート。少しでも心に余裕を持って走るための選択でした。



迎えた当日。

実は出走直前、小さなヒヤリがありました。坂道に停めていたバイクがニュートラルに入ったまま少しずつ動き、サイドスタンドが閉じかけていることに気付いて、慌てて止めました。一瞬の出来事でしたが、全身が冷えるような感覚とともに、去年の記憶が蘇りました。



「またやってしまうかもしれない」

そんな恐怖を抱えたままのスタートでした。走り出してからは、常にその意識が頭の片隅にありました。停車のたびに必ずローギヤに入れる、取り回しも一つ一つ確認する。今まで以上に慎重に、丁寧に走ることを自分に言い聞かせながらのラリーでした。それでも不思議と流れは悪くなく、ひとつずつ積み重ねるように距離を進めていきました。



そして、千里浜へ。

無事にゴール。しかし、その瞬間はまだどこか実感が追いつかず、夢の中にいるような、ふわっとした感覚のままでした。本当の意味でその実感が訪れたのは、翌朝の記念撮影でした。

ゴールゲートの前で並び、ふと隣を見ると、そこに同じ目線で立っている妻がいました。かつては後ろに乗せていた存在が、今は同じ景色を見て、同じ場所に立っている。守る存在だと思っていたはずが、気が付けば支えられていたのかもしれない。その瞬間、去年のトラウマを克服し「やっと胸を張って隣に立てる」と思いました。

その時の妻の姿は、これまでで一番綺麗に見えました。

その後、野沢温泉で二人でゆっくりと過ごしなが、自分たちで撮影した写真を見返しました。一枚一枚に、その時の空気や距離感がそのまま残っていて、どれも大切に、愛おしいものでした。あの千里浜で、二人並んで同じ目線でしゃがんでいる写真も、今の自分たちそのもののよう感じました。見ているうちに、無事にゴールできた安心と、あの日に達成できなかったことをやり遂げられたこと、そして大切な人とその瞬間を共有できたことが一気に押し寄せてきて、気付けば涙が止まらなくなっていました。思い返すだけで、今でも込み上げてくるほどの時間でした。その夜は泣きながら眠り、翌日、二人で無事に帰ることができました。

今回のSSTRは、
「初めての完走」であり、
「トラウマの克服」であり、
「夫婦としての新たなスタート」でした。



ここまで無事にたどり着けたのは、素晴らしい企画を用意してくださった運営の皆様、そして道中でお祝い声をかけてくださった多くのライダーの方々のおかげです。心から感謝しています。これからも二人で、安全に、楽しく、同じ景色を見ながら走り続けていきます。このSSTRは、その始まりとして、これから先も何度でも思い出しては涙が出る、かけがえのない時間になりました。

